



2020年8月31日

子宮頸部神経内分泌がんに対する免疫細胞治療の解析結果に関する論文が学術誌『Anticancer Research』に掲載されました。

医療法人社団滉志会瀬田クリニックグループは、順天堂大学 産婦人科学(東京都文京区)および聖マリアンナ医科大学 産婦人科(神奈川県川崎市)との共同研究において、子宮頸部神経内分泌腫瘍の患者に対して実施した免疫細胞治療の効果を検証するための後方視的調査研究(過去のデータを調査・分析する研究)を行い、本研究結果をまとめた学術論文(*1)が、がん免疫分野の学術誌『Anticancer Research』に掲載されましたのでお知らせいたします。

子宮頸部の神経内分泌がんは子宮頸がんの5%未満というとても珍しいがんのために標準化された治療法が確立されておらず、その予後は一般的な子宮頸がんと比較して悪いことが知られており、新たな治療の開発が期待されています。

本研究では、2004年から2015年までに瀬田クリニックグループを受診した子宮頸部神経内分泌がんの患者さんのうち免疫細胞治療を4回以上受けた14名を対象に、免疫細胞治療の有効性について、生存期間や長期予後の点から評価しました。

[今回確認された主な研究結果]

- 調査対象となった14名のうち、診断時に既に根治切除出来ないステージ4の方、および手術でがんを切除できたものの再発した方からなる進行がんの症例12名の生存期間中央値は、がん診断時を起点に算出すると49.7ヶ月、免疫細胞治療開始時を起点に算出すると24.4ヶ月でした。また、免疫細胞治療開始時からの全生存期間は、1年生存率が63.6%、5年生存率が25.5%でした。
- 肝転移や脳転移など遠隔転移をきたした2名は、手術、放射線治療、化学療法と免疫細胞治療によって、それぞれ101ヶ月および55ヶ月の間、再発もなく生存していました。
- 免疫細胞治療開始時に再発がなかった初期ステージ(Ib期およびIIb期)の2名は、それぞれ51.2ヶ月および87.3ヶ月の間、再発もなく生存しました。

子宮頸部に進行した神経内分泌がんでは3年以上(36ヶ月以上)の生存例は少なく、極めて予後が不良と報告されてきた今までの成績に対して、免疫細胞治療を行うことにより予後が改善する可能性が示唆されました。今回の評価結果では、子宮頸部の扁平上皮がんや腺がんなど一般的な子宮頸がんと比較しても予後が良好である成績を示しました。ただし、今回の結果は後方視的研究(過去のデータを調査・分析する研究)によって得られたものとなります。極めて珍しい疾患のため、多数例での比較試験は難しいものの、今後さらに多施設での前向き研究(試験デザインを予め決めて、治療データを集める研究)による評価・検証が必要と考えています。

瀬田クリニックグループは今後も、臨床現場で得た最新の知見や研究結果等を速やかに治療に応用するとともに、研究成果に係る情報発信を継続することで、がん免疫細胞治療の発展に貢献してまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ:

医療法人社団 滉志会 法人本部

東京都千代田区神田駿河台 2-1-45 ニュー駿河台 ビル 3F

TEL: 03-5860-2393 URL: <http://www.j-immunother.com/>

Email: info@j-immunother.com

(*1) Adoptive Immune-Cell Therapy for the Treatment of Neuroendocrine Carcinoma of the Uterine Cervix.

ANTICANCER RESEARCH 40: 4741-4748 (2020)

【 瀬田クリニックグループについて 】

1999年3月、免疫細胞治療の専門医療機関として「瀬田クリニック」(現:瀬田クリニック東京(東京都千代田区))を開院以来、瀬田クリニックグループ全体で22,000名を超える患者さんに治療を提供しています(2019年9月現在)。2009年に設置した臨床研究センター(現:臨床研究・治験センター)では、開院以来の治療実績から抽出した臨床データの解析に加え、大学病院、地域中核医療機関等との共同臨床研究を行い、Evidenceの強化、治療効果の更なる向上に取り組んでいます。